

力走1万4000人



号砲とともに一斉にスタートするフルマラソンの出場者
=16日午前9時すぎ、沖縄市の県総合運動公園

2014おきなわマラソン

男子中西、女子池原V

【中部】第22回「2014おきなわマラソン」(主催・中部広域市町村圏事務組合、琉球新報社、沖縄テレビ放送、沖縄陸上競技協会、県総合運動公園指定管理者トラステック、共催・県高等学校体育連盟)が16日、沖縄市の県総合運動公園を発着点に開催された。大会には過去最多となる1万7283人(フルマラソン部門1万3738人、10キロ部門3545人)がエントリー。速報値で1万4184人が出走した。

東門美津子実行委員会会長(沖縄市長)は「日頃の練習の成果を十分に発揮され、新たな記録更新への挑戦を目指してもらいたい」と走者を激励。号砲とともにランナーは一斉にスタートし、爽やかな表情で中部路を駆け抜けた。

沿道では菓子や水などを手にした住民や地元企業、ボランティアたちが声援を送った。エイサーやバンド演奏なども披露して、ランナーを後押しした。

競技マラソンの男子は、中西拓郎(25)が福岡県で2時間26分12秒で初優勝した。女子は池原綾乃(28)が浦添市で3時間1分25秒で初優勝。10キロロードレース一般男子は田子康宏(30)が広島県で31分51秒で初優勝、一般女子は津波古美月(21)が沖縄市で37分55秒で2連覇を果たした。



フルマラソン1位でゴールする中西拓郎=16日午前11時半ごろ、沖縄市の県総合運動公園陸上競技場

10キロコーススタート。好タイムを目指すランナーたち＝16日午前、沖縄市の県総合運動公園



世界遺産の勝連城跡を背に坂を駆け上がるランナー＝16日午前、うるま市勝連の与勝中学校前



好天に恵まれ中部路を楽しそうに走るランナーたち＝16日午前、沖縄市泡瀬

おきなわマラソン 中部路 駆ける

沿道からランナーに声援を送る住民ら＝16日午前、沖縄市泡瀬



沿道から声援を送る勝連FCの子どもたち＝16日午前、うるま市の勝連城跡前



太鼓の演舞でランナーを励ます児童生徒たち＝16日午前、沖縄市の県総合運動公園前